

【総合・小4・「広がれ天沼！ぼくらの未来プロジェクト」】①

育成を目指す資質・能力

桐生市における環境問題を解決する方法を考えて実践し、それを形にして発信する活動を通して、自分たちが暮らす地域の環境問題やその解決方法を理解し、環境を守って住みよい街に近づけるよう行動することができる。

ICT活用のポイント

- ①アンケートの実施と結果の集約 → 自動集計・グラフ化機能により瞬時に傾向をつかみ、判断の根拠に活用する。
- ②プレゼンテーションソフトを用いた発表資料作成 → 取組の成果や主張を効果的にまとめる。

事例の概要

〈探究の1サイクル目〉【清掃工場見学やごみステーションの調査】 → 【家庭やエコムーブ号からごみの減量方法調べ】
→【調査活動をまとめ、保護者や3年生の家庭に紙ごみを募集】

〈新たな課題の設定〉

桐生市は大量の紙ごみが課題。ごみの再利用への関心を高めるために紙をすいて小物を作ろう。

〈情報の収集⇔整理・分析〉

1. 紙すきを調べたり、プロの技を学んだりする。
2. すき紙や小物をつくり、相互評価や保護者や3年生の感想を基によりよいものにする。

〈まとめ・表現〉

完成した小物を3年生と保護者に贈る。
→さらに多くの人に伝える方法はないか？

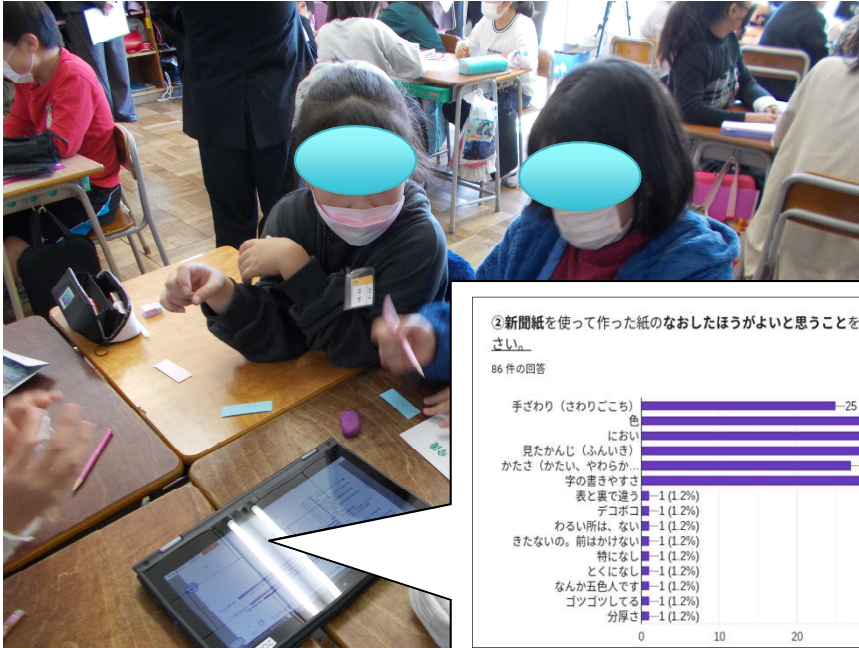
◆ 排出ごみの量が県内上位である桐生市の現状や、清掃工場担当者の思いを知り、「紙ごみの再利用について学校内や地域の大人に発信すれば、資源の活用への関心が高まり、紙ごみの再利用率が上がるだろう」という仮説を立て、新たな課題「紙すきで小物を作って紙の再利用をPRしよう」を設定。

- ◆ 野外活動センターで紙すきのやり方を教えてもらい、上手に作るコツをまとめる
- ◆ 5種類の紙を再利用した紙作りをし、それぞれの特徴をまとめ、相互評価する。
- ◆ 保護者や3年生に、作った紙を見せて、アンケートに回答してもらう。
- ◆ 保護者や3年生に、作った小物を見せて、アンケートに回答してもらう。
- ◆ アンケート結果を基に、よりよい小物作りに取り組む。

- ◆ 保護者や3年生に完成した小物を贈り、感想やごみ減量について考えたことを聞き、成果と課題をまとめる。
- ◆ 活動を振り返り、より多くの人に紙ごみの減量について発信する方法を話し合う。

【総合・小4・「広がれ天沼！ぼくらの未来プロジェクト」②】

【事例におけるICT活用の場面①】



【場面①】アンケートの実施と結果の集約（情報の収集、整理・分析）

学習成果に対するアンケートや意識調査を行う際には、これまでアンケート用紙を配布し、集計して分析することが多かったが、ICTを活用することで、より多くの対象者への調査や集計が可能となり、傾向の分析も瞬時にできるようになった。

このことにより、これまで児童が、アンケート用紙の作成や集計の作業にかけていた時間を、今後の取組に向けた話合いのために割くことができるようになった。

本実践では、児童が作ったすき紙の出来映えについて、3・4年生や保護者、合計90名以上を対象にアンケートを実施し、その結果を集計・グラフ化し、分析した。分析結果を基に、児童からは「前は色が課題だったから、絵の具を混ぜて綺麗な色にしたい」などの発言をする姿が見られた。

【事例におけるICT活用の場面②】



【場面②】プレゼンテーションソフトを用いた発表資料作成（まとめ・表現）

これまで取組の成果や主張をまとめ、表現する際には、新聞やポスターにまとめて発表することが慣例になっていましたが、ICTを活用することで、児童が取組の成果や主張を、文字や図に加えて、写真や映像、イラストなどでわかりやすく効果的にまとめ、表現できるようになった。

このことにより、聞き手の児童や保護者、地域の人などが児童の取組をよりよく理解することができるようになり、取組への賛同や評価をもらいやすくなった。また、発表側の児童にとっては、取組や表現したことの成果を感じやすく、主体性や社会参画に係る態度を育成することにつながった。

本実践では、児童が、3年生に対して、校内の紙ごみを削減するために、学級の紙ごみの提供をお願いしたり、集めた紙ごみで作ったすき紙や小物を紹介したりして、ごみ減量を呼びかけた。